

令和5年度 自己評価シート（あたご部門 小学部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の重点経営目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>①周りの人やものへの関心を高め、豊かに関わる力を育む。</p> <hr/> <p>学校努力目標（2）—③</p>	<ul style="list-style-type: none"> 同級生や教員、様々な遊具や教材などに関わる機会を増やす。その中で、児童が自分の苦手なことを意識したり、好きなことを増やしたりすることができるようにする。また、児童が苦手なことを補うための手段や技能を身に付けることができるようにする。 色々なコミュニケーション手段を使い（言葉や絵カードなど）、周りの人に自分の気持ちを伝えるなどの手段を身に付けられるようにする。 	3	<p>○身近な教師や友達に関する興味が高まり、カードを使って意思表示をする児童の姿が多く見られた。また、感情が高ぶったときに、気持ちを落ち着ける手段を身につけることができた児童もいた。</p> <p>○絵カードや手順表、写真、映像を用いた視覚的教材を多用に活用したことで、活動に見通しをもつことができ、苦手なことにも挑戦しようとする姿や自分から進んで取り組もうとする姿が多く見られた。</p> <p>▲日常生活において返事の習慣を身に付けさせることが難しかった。遊び方のルールやコミュニケーションの取り方を改めて指導しなければいけないと思う場面もあった。</p>
<p>②遊びや学習、生活体験を積み重ね、興味関心を広げるとともに、集団生活での簡単な決まりを守ろうとする態度を養う。</p> <hr/> <p>学校努力目標（2）—⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童が興味関心をもって取り組めるような遊びや学習を行い、児童が心地よく感じることや好きなことを見つけられるようにする。行事などでは、児童が見通しをもって取り組むことができるよう、繰り返し事前学習を行ったりする。 集団生活での決まりを明確にし、児童が分かるような提示の仕方を工夫する。決まりは少しずつ段階的に理解できるように指導をする。 手伝いや係活動を通して、みんなのために取り組んでいることを意識できるようにする。 	3	<p>○宿泊学習や修学旅行、校外学習では、事前に約束を繰り返し確認しながら活動の練習に取り組んだ。見通しをもって活動している様子も見られ、終わりの合図を守ったり、自分でスケジュールを見て、やるべきことを確認したりすることができた児童もいた。</p> <p>○各学級で一人一人係りの仕事が割り当てられ、繰り返し実践していくうちに、一人でできるようになった児童もいた。また、授業の道具の片づけを率先して手伝う児童もいた。</p> <p>▲授業中に活動を待つ時間が長いという課題がある。待つ時間をどう短くしていくか考えていきたい。</p>

<p>③児童の発達段階に応じた教科指導の基礎基本の定着及び自立活動の指導の充実に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 単元別指導計画表（体育）を活用した研究授業、公開授業、初任研や経年経過研の研究授業等を通して、児童の発達段階に応じた授業実践ができているか、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業実践ができているか等の評価・検証を行う。 • 児童一人一人の課題に応じた自立活動が実施できるよう、自立活動の視点に沿った実態把握を丁寧に行う。また、教材教具を工夫する等、指導力の向上をめざすとともに、「自閉症指導スタンダード」の確実な実践をめざす。 	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元別指導計画表を授業前に回覧し、共通理解を測って授業に臨むことができた。授業後も計画表を基に評価や改善点を複数の目で考えることができた。 ○ 自立活動の授業についても各学年で実態別でグループ編成をし、学習内容など工夫して取り組むことができた。また、児童一人一人の実態把握、目標設定を検討する時間を設け、自立活動の授業の充実を図ることができた。 ▲ 多くの研究授業や授業研究が実施されたが、授業を見合えるような授業計画ができず、他学年の授業を見る機会を取ることができなかった。次年度は、一人2～3の授業を見ることができるよう学部全体で考えていきたい。
<p>学校努力目標（2）—① ②④</p>			

令和5年度 自己評価シート（わかす部門 小学部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の重点経営目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>①周りの人や物への関心を高め、豊かに関わる力を育む。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（3）－2 （2）－9</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個々の実態に応じて人や物に関心がもてるような学習内容や指導方法の工夫に努めることで、自ら関わり相手を思いやる気持ちの素地を育むようにする。 学級間での合同学習やあたご部門との学年間交流、交流及び共同学習など関わる対象の幅を広げ、児童同士の関わり合いができるように努める。 	3	<p>○学校間や居住地校における交流及び共同学習では、直接交流ができ同年の友達との関わり合い集団で学び合う楽しさを感じることができた。</p> <p>▲充実した交流及び共同学習を実施するためには、やはり事前・事後学習を含めた計画を組むことが大切であると感じた。</p> <p>○他の学級と各教科において合同学習を行うことで教師や児童からの関わりに気づき視線を向けたり、表情を変えたりして応えることができ、児童同士の関わりも増えた。</p>
<p>②児童の発達段階に応じた教科学習の基礎基本の定着及び自立活動の充実に努める。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）－2、3</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画や単元別指導計画表を基に、各教科及び自立活動の指導において教師間で児童の目標や指導内容、手立て、評価等を共有し指導の一貫性を図る。 児童の実態や課題から授業のねらいを明確にするとともに、授業で身に付けさせたい力は何か、どのように身に付けさせるかに焦点を当て研究授業及び授業研究会を通し、教員一人一人が授業改善に努めていく。 一人一台端末を効果的に活用し、教科の学びを深める。 	3	<p>○単元別指導計画表の活用や授業連絡会を通し目標や指導内容等を教員間で共有し指導の一貫性を図ることができた。また、個に応じてステップアップできるよう指導内容や指導方法の検討等担任間で取り組むことで、効果的な指導を継続して実践することができ、児童の成長する姿を見ることができた。</p> <p>○研究授業や授業研究会を通し、教員間で個々の指導目標や内容について共通認識をもち授業に臨むことができた。また、授業研究会を通して、日々の授業の進め方や目標設定の仕方、教材教具の工夫、板書の仕方、児童への接し方等について考え直すことができた。</p>
<p>③様々な遊びや学習の中で主体的に取り組む力や自分がしたいことを自ら選んだり意思決定をしたりする力を育む。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）－7</p>	<ul style="list-style-type: none"> キャリア発達の指導内容表を参考にしながら、指導方法(子供の表出を待つ場面や声掛け等)の工夫やTTの役割の確認をすることで児童自身が主体的に学習に取り組むことができるようにする。 自己決定、自己選択を促すためにICT機器を児童の実態に応じて効果的に活用したり、自己決定、選択する機会を意図的に設定したりすることで主体的に行動できるようにする。 	3	<p>○児童同士で話し合う場面を意図的に設けることで自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりしながら話し合いを進めることができた。また、タブレット端末を用いた学習を行うことで、資料を活用しながら考えを深めたり、学習のまとめの際にKeynoteを使うことで収集した情報の選択・活用に生かしたりできた。主体的に学習に取り組むことができた。</p> <p>○授業において児童らが教材を選択する場面を設定し、児童の表情などの表出をしっかりと待つことができた。視線や発声で伝えようとする様子が見られるようになってきた。</p>

令和5年度 自己評価シート（あたご部門 中学部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の重点経営目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①集団活動を通して、他者からの働きかけを受け入れた り、相手を思いやったりする 態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人がお互いに認め合い、助け合い、学び合う場と機会を意図的に設ける。 学校内外の様々な人や事物に出会う体験活動を充実させる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉遣いや物の受け渡し方などについて、具体的な方法を伝えることで理解につながってきている。 ○きらめきフェスタや修学旅行という大きな行事への取り組みを通して、クラスの子ども達同士で声をかけ合いながら自分たちで考えて行動できる場面が増えた。
学校努力目標（2）－10			
②日常生活の様々な場面において、自分でできることを増やし、継続して取り組む力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの考えをもって、自ら主体的に判断し行動することができるようにする。 自立心や自律性を高め、規律ある生活が継続できるように取り組む。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字検定や生徒会役員選挙に生徒が前向きに参加できるように、教師が寄り添った指導を行い、生徒の頑張っていることを称賛することで、自信をもって取り組むことができた。 ○困っていることに自分自身で気付くことが増え、教師や友達に相談したり、支援を求めたりすることができる機会が増えた。自分の課題に向き合い、挑戦する生徒が増えている。
学校努力目標（2）－8			
③生徒の発達段階や障害特性に応じた学習を通して、主体的に学ぼうとする態度を身に付けさせるとともに、教科指導の基礎基本の定着及び自立活動の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れる。 自立活動の時間の指導と各教科等における指導との関連を図る。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○教科学習では、同じグループの中でも到達度を見極め、生徒個々に応じて、課題や家庭学習に取り組みさせることができた。 ○自立活動では、個々の自立の目標を担任間で確認し、時間における指導や学校の教育活動全体を通じて行う指導に取り組むことができた。
学校努力目標（2）－1 （2）－3			

令和5年度 自己評価シート（わかくす部門 中学部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の重点経営目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>①集団活動を通して、他者からの働きかけを受け入れたり、相手を思いやったりする態度を育てる。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）—10</p>	<ul style="list-style-type: none"> 部門や学年、学習グループの枠を超えた学習、生徒会活動等を通して、生徒自身が役割をもち助け合ったり協力し合ったりする場面を設定する。 いろいろな学習の中に、道徳教育の視点を計画的に盛り込み、友達を思いやったり家族に感謝したりする気持ちを育てる場面を設定する。（道徳の評価まで） 	3	<p>○生徒会役員選挙の取組を通して、他者の気持ちを受け入れたり、相手の立場に立って物事を考えたりすることができた生徒が多かった。</p> <p>○文化祭などの行事をきっかけに、生徒同士の関わりが増え教師の仲介がなくても休み時間などに生徒同士で話をしたりする場面が増えた。</p> <p>▲次年度は学年集団を大切にしたい取組を行うことで、自己理解他者理解につなげたい。</p>
<p>②自分の得意なことや苦手なことを知り、少し難しいことにも挑戦する気持ちを持ち、主体的に課題を解決しようとする力を育てる。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）—7</p>	<ul style="list-style-type: none"> 得意なことや苦手なことに向き合う場面を設定する中で、人の意見やアドバイスを受け入れながら、自分のことについて理解を深めさせる。 校外学習、職場体験や施設体験等を含む進路学習を通して、今の自分に必要な力を見つけ、教師や友達に相談しながら、目標に向かって挑戦したり課題を解決したりできるようにする。 	3	<p>○日頃から学習の目標を意識させることで、宿泊学習や交流及び共同学習でも、自分からいろんなことに挑戦したり前向きに課題を解決したりしようとする態度が身に付いてきた。</p> <p>▲ICT機器の活用においては、興味関心にとどまらず、活用の定着、日常生活への般化を目指して効果的に活用していく必要がある。</p>
<p>③生徒の発達段階や障害特性に応じた学習を通して、主体的に学ぼうとする態度を身に付けさせるとともに、教科指導の基礎基本の定着及び自立活動の指導の充実に努める。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）—1 （2）—3</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元別指導計画表の作成を通して、学習グループの実態に応じた授業づくりを行い、単元ごとの評価を個別の指導計画につなげる。また、生徒自身が主体的に学ぼうとしたり家庭学習に取り組んだりできるように促し、教科の視点で評価の積み重ねをする。 自立活動の指導においては、目標設定から指導、評価まで複数の教員で関わり、中間評価会等を効果的に活用して、生徒一人一人の目標到達を評価する。 	3	<p>○単元別指導計画を作成する段階で、単元の担当者を中心に内容の話し合いをすることで、単元のゴールが明確になり、学習の狙いがずれることなくより効果的な指導につながった。</p> <p>○自立活動の指導においては、前期の評価を受けて、指導内容の追加や手立ての見直しなどがしっかりできた。そのことで、教師が各生徒の目標への意識が高まり、学年末に向けて目標達成を見据えた指導をすることができた。</p>

令和5年度 自己評価シート（あたご部門 高等部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の重点経営目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>①自他を尊重する態度を養うとともに、集団生活のマナーを守り、周りの人と協調・協力しながら生活する態度を養う。</p> <p>学校努力目標（1）—①</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の気持ちや意思を丁寧に聞いたり言動を観察したりして生徒理解に努めるとともに、職員一人一人の人権意識を高め、常に人権を意識した言動をとって見せることで、生徒の人権意識を育てる。 「ありがとうの7日間」や「道徳の日」などを中心に、決まりやマナーについて考えたり意見を交わす機会を設けるとともに、様々な場面で協力したり、助け合ったりしながら生徒が主体となって活動する機会を多く取り入れる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ありがとうの7日間などの取組をとおして、様々な場面で声を掛け合い、協力して活動に取り組むことができるようになった。 ○普段の生活の中で、日常的にルールやマナーについて話をするすることで、自分たちでどうしたら良いのか考えたり、教師に質問をしたりすることが多くなった。 ▲異性関係や SNS、下校時に関してルール違反があった。また、下校に関しては、搜索事案のケースがあった。相手の気持ちを考える学習に取り組みつつ、実際の生活場面に般化できるように継続して指導をしていく必要がある。
<p>②個々の課題に主体的に取り組み自ら考え判断する力を育てるとともに、これまでに身に付けた知識や技能を生かしながら課題解決に向けて努力する態度を養う。</p> <p>学校努力目標（2）—⑤⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習や行事の振り返りの時間をしっかり確保し生徒自身が自分の課題に気付かせるとともに、次の活動や日々の生活の中でその課題の解決に向けた取組ができるような指導・支援をする。 生徒の取組の過程、頑張りを大切に、どこがどのように良かったかなど具体的に生徒に示すことで、次につながるようにする。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○校外での学習や現場実習などをとおして、自分の課題にあった目標を立て、振り返りに時間をかけることで自分の課題を少しずつ理解することができ、意識が高まってきた。進路実現に向けて課題克服に向けて頑張ろうという気持ちが芽生えてきている。 ▲自己理解に課題がある生徒もまだ多いため、課題を前向きにとらえられるように継続した指導をしていく。 ▲困ったときの相談の仕方（相手、伝え方、相談されたときの対応など）についても指導を行っていく。
<p>③生徒の発達段階に応じて教科学習に主体的に取り組ませるとともに、基礎基本の定着及び自立活動の指導の充実に努める。</p> <p>学校努力目標（2）—①②</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画や単元別指導計画表を基に、目標や手立て等を教師間で共通理解するとともに、ICT 機器を積極的に活用しながら、生徒自身が活動し考える授業実践を行う。 研修や実践を通して、教師の指導力向上を図るとともに、生徒の障害の状態や特性などの実態を丁寧に把握し、自立活動で取り組む課題を適切に設定し、学部や学年全体で指導・支援に取り組んでいく。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○自立活動の目標などについて学年間で共通認識をもてるような場を設けたり、公開授業を行ったりしたことで、自立活動の目標や課題と教科の授業や日常生活での指導のつながりがより明確になったように感じる。 ○1年生で、実施内容と反省が分かるように記録を取って確認することで、それぞれの取組みの様子や課題が分かるようになってきている。必要に応じて課題が適切であるか検討することができた。先々、全学年での取組につなげたい。 ▲自立活動の目標を全員で共有することの難しさがあるとの意見もある。簡潔にまとめた目標を共有したり、記録の共有をしたりして工夫していきたい。 ▲ICT機器を効果的に活用していくには、更に職員のスキルアップと効果的な事例などの共有が必要。

令和5年度 自己評価シート（わかくす部門 高等部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の重点経営目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>①自他を尊重する態度を養うとともに、集団生活のマナーを守り、周り人と協調・協力しながら生活する態度を養う。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）—⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 日常の挨拶、生活支援やその他の場面におけるお願いやお礼を言う指導を徹底させる。 • 各学年や教育課程のまとまりで学習する機会を設け、生徒が相互に関わる機会を増やす。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○修学旅行や宿泊体験学習など、行事を通して生徒同士の関わりが向上した。 ○学級や学習グループを超えて場を共有する機会が増えたと感じることが多い。 ○意思を伝えることが難しい生徒のコミュニケーション手段が向上している。
<p>②生徒の発達段階に応じて教科学習に主体的に取り組ませるとともに、基礎・基本の定着及び自立活動の指導の充実に努める。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）—④</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学習到達度チェックリストから各生徒の学習段階を把握し、必要な学習内容や手立てについて個別の指導計画や単元別指導計画で指導計画を立てるなど、諸表簿の活用を充実させる。 • 個別の教育支援計画の目標、自立活動における課題関連と重点目標の関連について定期的に検証する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○自立活動で生徒の心理的側面に関する学習を行った。生徒の気持ちが前向きになり、言動に変化があり、効果があった。 ▲登校が安定しない生徒に訪問指導や放課後の受入れに取り組んでいるが、学習に偏りがあり十分な活動には至っていない。
<p>③自分を見つめ、自分に合った進路について考え、自己選択・自己決定する力を高めるとともに、関連機関との連携を図りながら将来の職業生活、社会生活、家庭生活を見据えた自立の力を養う。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）—⑤</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 各生徒の進路の可能性に合わせて幅広い情報提供を行い、社会体験実習で実践力を身に付けさせる。 • 生徒の進路希望に合わせて、相談支援事業所との連携をはじめ、職業安定所（ハローワーク）の登録、資格取得やキャリア検定の参加を積極的に行う。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○社会体験実習での体験が、その後の生徒の心理面や行動に効果を発揮している。 ○日常の学校生活では、苦手意識から取り組みに消極的だったが、徐々に努力する姿が増え、改善策を自ら考えるように変化した。 ○保護者から進路に関する相談を受け、情報提供や施設見学を実施することで、家庭との連携が向上した。

令和5年度 自己評価シート（高等部上五島分教室）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の重点経営目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>①社会で活躍するために必要な知識・態度・体力の定着を図り、授業の工夫・改善に努める。</p> <hr/> <p>学校努力目標（2）—① ③ ④</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幸せな人生を阻害する可能性が高い課題（金銭、性、依存、引きこもりなど）を「先送りしない」実践 ・「集団での学び」を重視した実践 ・個人の学習を積み上げる実践 	3	<p>○性の学習では、産科医を招いての授業ができた。</p> <p>▲学校教育における集団での学びに関して、職員間の理解がまとまらず、新しい取組を実践することができなかった。</p> <p>○一部の授業では、タブレットを使用して個人のペースでの学習に取り組み、理解の促進と学習の定着を図ることができた。</p>
<p>②自己選択・自己決定する力を高めながら進路実現を図り、自立する力を育成する。</p> <hr/> <p>学校努力目標（2）—⑤ ⑦</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・働く力を高める作業的学習と現場実習を改善する。 ・自己判断の材料を豊富に提供する（体験する）。 ・進路を決断した理由を、自分の言葉で責任をもって説明できるようにする。 	3	<p>○作業技能検定の学習によって生徒の技術を高めることができた。</p> <p>○現場実習の事前事後学習をより充実できた。</p> <p>○校外学習や体験学習を増やすことで、生徒が自己判断する機会を設けることができた。</p> <p>▲進路決定に関して、本人も保護者も覚悟をもって考えることができず、卒業前まで迷う可能性がある。</p>
<p>③自分も他者も大切にすることを育て、上五島地区の発展に寄与するための教育実践に取り組む。</p> <hr/> <p>学校努力目標（1）—① （2）—⑥ ⑩ （3）—③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳心と自己肯定感を育てる。 ・幸せに生きる方法を探究する（生活・余暇など）。 ・年間を通じた地域貢献（花壇整備、ゴミ拾い）（観光施設の装飾、寄付バザー） 	3	<p>○週1回の道徳の授業や学校生活全般を通して、ルールやマナーを確認させることができた。</p> <p>○学級活動の中で、将来の楽しみにつながる活動を企画・実践することができた。</p> <p>▲音楽美術が週1時間ずつしかないので、満たされない感じの生徒がいた。</p> <p>○地域貢献活動への生徒の意欲が向上し、地域の人への理解啓発もできた。</p>

令和5年度 自己評価シート（教務部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>① 学校教育目標を達成するために単元別指導計画表と個別の指導計画表との関連を明確にし、さらに効果的な活用に努めながらカリキュラムマネジメントを推進し、教育課程を編成する。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）—①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元別指導計画表については、各部の実状に合わせ、様式の検討及び新しく教科の単元別を作成する。 ・授業計画に、単元別を活用することで、授業連絡会で共通理解を行う。単元終了時ごとに目標・評価、時期・時数、学習内容について反省を行い、教育課程編成に活用する。 ・研究部と連携し、作成した単元別指導計画表のファイリング、データの保管を行った。 ・授業連絡会や単元別ミーティングの時間を設定した。 	3	<p>○単元ごとに単元別指導計画表を作成し、反省を行うことで次年度の教育課程に生かした。教科ごとにファイルで単元別指導計画を整理し、蓄積することで、次年度の学習活動や書き方などが参考になった。</p> <p>▲評価の時間を十分に取れなかったグループもある。</p>
<p>② 各教科等部会の活性化を図り、小・中・高の連携を図るとともに、各教科等の系統的な指導内容の整理、評価について各学部の実態に即した研究に努める。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）—⑧・⑨</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等部会の内容を学部会や授業連絡会などで共通理解を行う。 ・教育課程委員会と連動させ、各部の教育課程編成につながるように、教務より、話合いの柱を提示する。 ・各部会の記録を確実に回収、教務主任・管理職に回覧することで情報の共有、全体化が必要な事項については、全体化を図る。 ・各教科等部会で受けた検討事項などを学部会で報告してもらう。 	3	<p>○各教科等部会において、小中高の系統性を見直しを行い、来年度の教育課程の作成において、各学部で検討しながら改善する方向でできた。</p> <p>▲部会により、ある程度系統性は確認しており、話し合う内容に困ったという意見もあった。</p> <p>○▲教科等部会を行うことで、小・中・高の教科書や教育課程を見比べて系統性等について話し合うことができた。教科書を選定の際、今まで採択した教科書を選定しないように毎年、選定委員会の前に学部間で確認する必要があると感じた。</p>

令和5年度 自己評価シート（研究部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>①「育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいた各教科における指導内容と学習評価の検討」を目指し、個別の指導計画の学習評価をより良い教育課程編成につなげる取組を行う。 R5年度の研究テーマ：「個別の指導計画の学習評価を教育課程・年間指導計画編成につなげる仕組みづくり」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、単元別指導計画表の作成をマニュアルに基づき作成する。 ・単元ミーティングを実施。単元別指導計画表の評価の欄に、教育課程編成に生かす項目を設定し、教育課程編成の見直しにつなげる。 ・三年間の研究をまとめ、研究紀要を発行する。 	3	<p>○児童・生徒の実態把握や目標から評価までの一連のシステムを構築することができた。</p> <p>○個別の指導計画、単元別指導計画表の作成マニュアルを作成。全職員で確認することができた。</p> <p>○単元ミーティングを実施、評価を教育課程編成の見直しにつなげる事ができた。</p> <p>○三年間の研究をまとめて、研究報告会を行った。研究紀要にまとめて発行する。</p> <p>▲次年度以降、引き続き継続して単元別指導計画表を作成し続け、カリキュラム・マネジメントを行うこと。</p>
<p>学校努力目標（2）—①</p>			
<p>②研修案内、公開授業や他部・他部門研修を行い、教職員の自主的な研修を行うことを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業を行い、教職員の授業の質の向上や授業改善への意識を高める。 ・他部、他部門研修を行い、各部門や各部の相互理解を高める。 ・人権教育研修会を行い、人権に対する意識を高める。 ・長特研、九特連、長肢研、九肢研の業務を行い、研修に参加する。 	3	<p>○公開授業を行い、授業改善への意識を高めた。</p> <p>○他部、他部門研修を行い、相互理解を深め、他部・他部門の児童・生徒の実態や状況などを知ることができた。</p> <p>○人権教育研修会を行い、多様性のある教育について理解を深めた。</p> <p>○長特研、九特連での研修、運営などに参加し、研鑽を深めた。</p> <p>○長肢研、九肢研の運営に関する業務を行い、研修に参加して学びを深めることができた。</p> <p>▲他部、他部門研修についてはより良い研修につなげるため、研究部内で見直しを行う。</p>
<p>学校努力目標（2）—④</p>			

令和5年度 自己評価シート（生活生徒指導部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①非常時に備えた危機管理能力の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学校安全管理マニュアルの改訂および周知徹底 計画的な登下校指導の実施 	3	<p>○年間予定していた地震・津波、火災、引き渡し、不審者、搜索訓練を実施することができた。</p> <p>▲学校安全管理マニュアルの見直し、検討を行っている。</p> <p>○毎学期始めの週には、佐世保駅、学校周辺に職員を配置し、登校時の安全指導を行うことができた。</p> <p>▲下校時、駅や交通機関の利用等についての問題があった。</p>
学校努力目標（1）—③			
②安全点検の徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検表の確認と報告の徹底 正確で迅速な報告を徹底 	4	<p>○期日までに提出ができるように促し、2学期は100%の回収を行うことができた。</p> <p>○事務室や島本さんの方で素早く修理点検を実施していただいた。</p>
学校努力目標（1）—②			
③豊かな心の教育の実践を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 長崎っ子のところを見つめる週間における地域・保護者との連携強化 	3	<p>○長崎っ子のところを見つめる週間では、学部、関係機関の見学を曜日毎に設定し、実施することができた。1週間で150名の参加があった。保護者からは授業の様子が見れてよかったという意見が多かった。</p> <p>▲学校公開と2週に渡っての実施は負担が多かった。来年度は教務と相談しながら検討していきたい。</p>
学校努力目標（3）—③			

令和5年度 自己評価シート（保健体育部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>①生徒が安心・安全に活動ができる環境を整備する。</p> <hr/> <p>学校努力目標 (1) —①、② (2) —②、⑧</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃日の設定と共に、日々のチェックや行事前等のチェック。 ・環境整備のための掃除用具や教材等の道具の管理及び整理を、時間を確保し行う。 ・体育的行事や授業内における安心・安全に配慮した授業環境（内容等も含む）の整備（授業のUD化）を行う。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークサポートの活用により、効率的に行うことができた。今後も計画的に活用したい。 ○▲掃除用具及び教材等の道具の管理及び整理に関しては、以前からの重要課題である。文言化した施設利用のルールの実行につながる情報共有、不必要物の整理・処分等に向けて取り組みたい。 ○▲授業運営に際し、安全・安心かつ、効率的な運営を目指した。UD化については、自立活動部とも連携し、各学部の成果等を踏まえて今後進めたい。 ▲児童生徒の人数増等により工夫して行ったが、物理的に場所の確保が必須。また、行事等により運動場が駐車場になることが多く、授業に支障が出ることもあった。体育館の雨漏りも深刻化しており、早急な対策が必要である。
<p>②健康教育の充実を図る。</p> <hr/> <p>学校努力目標 (1) —①、② (2) —②、⑧、⑩ (3) —③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に向けたブラッシング指導及び職員向けの研修会等を行い、歯や口の健康への意識を高める。 ・アレルギー対応について周知を図り、校内体制を整える。 ・毎日の健康観察及び検温を徹底し、早期に対応できるようにする。 ・衛生行動（手洗いやうがい及び手拭きなど）の習慣化に向け、日々の生活に般化させるための授業との連携を図る。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○▲ブラッシング指導はコロナ禍以降減少しつつ取組んでいると感じる。来年度は、外部を活用したブラッシング指導を計画中。 ○▲緊急時のアレルギー対応について、マニュアル等を基に運用を行った。職員全体の危機管理の意識の向上を目指し、ヒヤリハットの情報共有及び何らかの形で職員の対応手順等の研修を行えると良いと考える。 ○▲毎朝の健康観察及び検温等により、体調不良時には早期対応できた。家庭での対応の周知等については課題。 ○▲衛生行動のさらなる習慣化に向け家庭との連携や、寒冷時期における衛生面の確保の工夫等が必要

<p>③食育に関する指導を充実し、児童生徒の健康増進と体力向上、さらに健康意識の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 食の安全を徹底できるように、給食説明会を全職員に行うとともに、異物混入時のマニュアルの再確認及び対応訓練等を実施する。 • 児童生徒への食育啓発のために、食育の日には食に関する掲示を行ったり、献立表で知らせたりする。また、食育検討会で、給食に関する課題などを十分検討する。 • 職員及び保護者への食育啓発に向け、学部会等を通じたの伝達や、配付物等で日々の疑問に答えるような情報提供及び発信を行う。 	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月食育の日には、実物を触って楽しめるように提示したり朝の会で説明したりすることで児童生徒の興味関心を高めることにつながる部分があった。メニューの人気投票等の取組も好評だった。 ○食育検討会を実施し、各部、学年における反省を確かめ合った。 ○食の便り等を通じた、保護者向けの理解啓発を行った。日頃の家庭の悩みに応えるような構成で、身近な情報として捉えていただける工夫を行った。給食見学会も保護者のニーズを知る機会となった。
<p>学校努力目標 (1) —①、③ (2) —②、⑧ (3) —③</p>			

令和5年度 自己評価シート（進路指導部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①児童・生徒との関わり合いを通して、考えや表現を引き出すとともに、望ましい生活について考えるきっかけとなるようにキャリアパスポートの確実な実施を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの実施時期を分掌部内で共通理解する。 ・キャリアパスポートの様式や実施方法を分掌部内で振り返る。 	3	<p>○各学部確実に実施できた。</p> <p>▲わかくす小学部4課程の児童が主体的に取り組めるような様式を作成する必要がある。（現在作成中）</p>
学校努力目標（2）—⑦			
②児童・生徒、保護者、担任が卒業後の進路を意識できるように、進路先や卒業後の生活について情報提供をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活に関する研修会を開催する。 ・進路先の情報を簡単にまとめ、回覧する。 	4	<p>○保護者向け、教員向けの研修会だけでなく、PTA主催の研修会においても卒業後の生活について詳しく説明できた。</p> <p>○進路部で知り得た情報をまとめ、5回程度回覧した。</p> <p>▲研修会欠席保護者の情報不足を感じる。研修に参加しやすい設定方法を検討する。</p>
学校努力目標（2）—⑤			
③現場実習や作業学習などの取組を外部へ情報発信することで、本校への理解・協力を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路先の方を学校見学に招く。 ・中小企業家同友会と連携し、障害者雇用をしたことがない企業へ理解促進を図る。 	3	<p>○企業2件、福祉事業所1件学校見学を実施できた。作業の様子を見てもらい、今後の実習受け入れについて検討してもらった。</p> <p>○中小企業家同友会の代表の方と3件会社訪問を実施した。</p> <p>▲実習報告会に参加してもらうなど、もっと児童・生徒を見てもらう機会を設定してもよかった。</p>
学校努力目標（3）—③			

令和5年度 自己評価シート（自立活動部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>①自立活動の指導力向上をめざすとともに、「自閉症スタンダード」の確実な実践をめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート、力量形成チェックシートの結果を元に研修会の内容を企画・運営し、必要に応じて小グループでの学習会を企画する。 ・外部専門家活用事業における事例検討会、研修会の参加方法を見直し、それぞれのニーズに応じ、日頃の指導に生かせるようにする。 ・研修会や学習会で「自閉症指導スタンダード」の内容について理解を深める。 ・公開授業や経年研の研究授業において、自立活動に積極的に取り組んでもらうよう各部に働き掛ける。 	3	<p>○前年度のアンケートを基に、3回の個別の指導計画に関する自立活動研修会を行い、目標設定や指導内容設定について周知することができた。手順についても定着しつつある。</p> <p>○外部専門家活用事業に係る研修会では、各部のニーズに応じた内容で研修を深めることができた。</p> <p>○自閉症スタンダードについて、4月に自立活動部、7月、11月は地域支援部等と協力して研修を行い、理解を深めることができた。</p> <p>○自立活動の公開授業や研究授業を各部積極的に取り組まれ、自立活動の指導について考える機会が増えた。</p>
<p>学校努力目標（2）－②</p>			
<p>②目標検討会、評価会等を円滑に運営し、実態把握から授業改善までのPDCAサイクルによる自立活動の授業実践をめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会等で目標設定シートを活用し、実態把握から目標と指導内容設定、評価までの手続きについての理解を深める。 ・目標検討会、評価会を通して、PDCAサイクルによる自立活動の授業実践を働き掛ける。また、目標設定シートの様式を統一し、全校で作成と検討を行う仕組みを定着させる。 	3	<p>○目標設定シートを活用した実態把握から目標・指導内容設定評価までの手続きを全校で共通理解できた。また、マニュアルを作成し全校職員に配付した。</p> <p>▲目標設定の手続きにおける中心課題の設定については、まだ研修が必要などころがある。</p> <p>○個別の指導計画提出時に目標設定シートを提出することで、複数の目で検討することができた。</p> <p>○知的障害教育部門で目標検討会を担当以外の教師も入って行うことも計画している。</p>
<p>学校努力目標（2）－④</p>			

<p>③保護者への自立活動の指導に関する理解啓発を進める。また、リハビリ見学など関係機関との連携の強化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部専門家活用に関わる研修事業の活用の充実を図る。 ・発達センターを始め、関係機関へのリハビリ見学や学校訪問について、日程等の連絡調整を行う。 	<p>3</p>	<p>○リハビリ見学の件数は減少しているが、関係機関が学校訪問をする機会が増え、連携をさらに深めることができた。</p> <p>▲日程調整等の業務が大変負担である。部主事や他分掌に相談していく。</p> <p>○自立活動だよりで各部の自立活動の指導の紹介や自閉症スタンダードの実践についても紹介した。</p>
<p>学校努力目標（3）—③</p>			

令和5年度 自己評価シート（教育支援部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>①支援籍による居住地校交流を円滑に実施できるよう、交流マニュアル等を活用しながら、目的や手続きの流れ等について各担任と共通理解するとともに、リモート交流の推進等、交流内容の充実を図る。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（3）－2</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各担任がスムーズに交流を進めることができるよう、4月末に交流実践者（担任）説明会を実施し、その中で今年度から運用する「支援籍における居住地校交流マニュアル」の周知を行う。 直接交流だけでなく、手紙のやり取りやリモートでの交流の実例を紹介するなどして、間接交流の推進を図る。 	3	<p>○小中学部合わせて55名の児童生徒が交流を行った。感染症のり患や予防のため、年度当初の計画通りには実施できなかったケースもあったが、相手校と実施日を再調整するなど工夫を行いながら、ほとんどの児童生徒が直接交流を実施し、地域の友達との関係を深めた。</p> <p>○相手校からもらった手紙等を廊下の掲示板に掲示してもらい、児童生徒や保護者への啓発につながった。</p> <p>▲昨年度に比べ、直接交流は盛んになったが、その分、リモートでの交流は減った。</p>
<p>②校内支援体制や研修会の整備を行い、障害特性や発達段階に応じた指導の充実を図る。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）－8</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「強度行動障害」について、知的障害部門小学部5年生児童の指導事例発表会（研修会）を長期休業中に実施し、職員全体の特別支援教育についての専門性の向上を図る。 	3	<p>○夏季休業中に、「強度行動障害の基礎理解と指導実践」とい題目で研修会を実施した。若手を中心に約40名の職員の参加を得て、「とても勉強になった」という好評をいただいた。</p> <p>●校内支援体制について、来年度から推進できるよう検討する。</p>
<p>③教育支援会議の成果と課題を整理し、放課後等デイサービスや相談支援事業所等との連携した支援の充実を図る。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（3）－1</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育支援会議の実施状況を報告してもらい、実施件数を把握する。 教育支援会議で話し合われたことについて、必要に応じて、会議出席者以外の職員への情報提供や共通理解を行う。 	3	<p>○放課後等デイサービスや相談支援事業所からの依頼だけでなく、学校（担任）から依頼し会議を実施したところもあり、課題や支援方法などについて話し合うことができた。</p> <p>○必要に応じて、支援会議の議題を学部会で取り上げたり、会議の結果を（出席者以外の）関係職員にも回覧したりするなどして、共通理解を行った。</p>

令和5年度 自己評価シート（地域支援部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①特別支援教育のセンター的機能の発揮に努め、県北地域の特別支援教育の充実・発展を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 年度始めに、テーマ別の学習会（小・中学校対象）を計画し、外部へ発信する。事前アンケートを基に運営する。 教育相談（夏季教育相談を含む）において、相談者や子供のニーズに応じた指導・支援等に関する助言や情報提供を丁寧に行う。 ホームページで連絡協議会開催の研修会や学習会の内容を発信する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○専門的知識をもつ教諭の協力を得て年4回の学習会を計画・実施。4回を通じて、総計93名の参加。 ○教育相談等件数130件。うち夏季教育相談16件（保・幼からの相談が増加）、研修支援7件。 ▲校内支援体制整備や教育支援計画の活用、研修支援等による特別支援教育の理解・啓発。 ▲各相談機関との連携や役割の明確化。
学校努力目標（3）—①			
②各市町の教育委員会と連携を取り、特別支援教育コーディネーター連絡協議会の組織・内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限り、研修・取組などにおいて実務者の役割分担を行う。 佐々町については、年度ごとに実務者のまとめ役の輪番制について提案し、運営する。 佐世保市については、教育委員会と運営・役割について協議、確認を行う。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ○佐々町では、「発達の捉えと目標シート」の活用について、園、各校実務者による取組・実践の報告。 ▲実務者のまとめ役（輪番制）について、業務内容を明確化し、まとめ役を中心としたスムーズな運営を図る。 ○佐世保市では、「地域資源活用ガイド（試作版）」を作成。次年度、確定版を作成し、成果として報告予定。研修会で各実務者によるグループ協議の進行、報告書の作成。 ▲連絡協議会と所・園、学校校の各コーディネーターとのつながり、組織体制作り。
学校努力目標（3）—①			

自己評価の数値が「2」以下の項目について

努力目標の番号	次年度に向けた改善策
2	<ul style="list-style-type: none"> 佐世保市について、まず組織の横のネットワークの構築を図る。ネットワークを構築することで、実務者を通じて、各コーディネーターへ連絡協議会の取組等に関する周知や現場の意見集約等を行い、課題改善や特別支援教育推進に向けた連絡協議会の取組・運営につなげる。 佐々町について、町教育委員会と連携を取り、実務者会の中でコーディネーターの役割や実務等に関する研修の実施について検討を行う。実務者のまとめ役の役割明確化を検討する。

令和5年度 自己評価シート（情報教育部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
<p>①定期的に職員向けの研修会を行い、ICT 機器やアプリ等の使い方を知らせ、授業で活用できる人材を増やす。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）—③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器等に関する研修会、勉強会を企画、実施する。 知、肢両部門の授業で活用できるアプリ等の紹介を行う。 	3	<p>○職員の必要性に応じてアクセシビリティ機能、支援技術等について研修会を実施することができた。授業での活用も以前より進んでいる。</p> <p>○定期的に授業で活用できるアプリの紹介やICT 機器の設定方法等について「情報教育通信」を発行することができた。</p> <p>▲校内のICT 活用推進を更に進めていくとともに、保護者との連携を取りながら今後家庭学習での活用も更に進めていきたい。</p>
<p>②情報機器に関するマニュアルを作成したり、情報関係のルールづくりをおこなったりすることで情報教育の環境を整える。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）—③</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での活用を進めるためにも、タブレット PC の持ち帰りに関する書類の見直し、使用のルールについて見直し、修正を行う。 情報セキュリティ管理要綱の大幅な変更に伴い、情報セキュリティ委員会で校内での方策を検討し、周知する。 	3	<p>○タブレット PC の持ち帰り、使用のルールに関する書類の見直し、修正を行うことができた。</p> <p>○全職員に情報セキュリティに関する研修会を実施して周知することができた。</p> <p>▲タブレット PC だけではなく、周辺機器等の使い方に関するマニュアルも充実させ活用を促す。</p>
<p>③紙媒体を含めて、情報を適切に管理する方法を徹底し、情報モラルを意識できる人材を増やす。</p> <p>-----</p> <p>学校努力目標（2）—③</p>	<ul style="list-style-type: none"> 私有パソコン利用申請や作業申請、端末持出申請、紙媒体持出申請に関して情報セキュリティ研修会や毎月の持出に関する点検で重要性の説明、情報管理に努める。 パソコンや紙媒体の持出申請書などファイル保管場所を周知し、記入を徹底する。 	3	<p>○必要に応じた各種申請の徹底を促すことができた。新しく導入された事務用端末持出に関しては、規定に従って、管理システムでの申請や持ち出す際のルール、点検を徹底することができた。</p> <p>○パソコンや紙媒体の持出申請書等に関しては適切に呼び掛けを行い、周知徹底することができた。</p>

令和5年度 自己評価シート（文化部）

4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：あまり達成できなかった 1：達成できなかった

今年度の努力目標	達成に向けた具体的方策	評価	成果（○）と課題（▲）
①文化的行事の企画、運営を行い、児童生徒が生き生きと自己表現できる環境を作る。	<ul style="list-style-type: none"> きらめきフェスタや青少年劇場、文化芸術による子供育成推進事業芸術を計画し、運営していく。 	3	<p>○きらめきフェスタでは、学部ごとの開催で実施した。学部ごとにアイデアを出して違う部門の発表も見ることができ、普段の学習の成果も発揮することができた。コロナ禍が開けて、今後の運営などは検討が必要である。</p> <p>○子供育成推進事業芸術では音楽コンサートに参加した。音楽を五感で体感できる良い機会となった。青少年劇場では、演劇を鑑賞し、豊かな人間性や興味関心を高める良い機会となった。</p> <p>▲実施時期などの面で、参加できない学部があった。参加の仕方など検討が必要である。</p>
学校努力目標（2）—⑧			
②児童生徒の作品など、学習活動の成果を総合的に生かし、発表する場を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み作品展を計画し、他学部の友達の作品を鑑賞し合う。 学校だよりを発行し、作品を発表する場を設ける。 	3	<p>○コロナ禍が開けて初めての夏休み作品展であったが、スムーズに実施できた。</p> <p>○学校だよりでは、先生方のアドバイスもあり、児童生徒の作品や、学校の様子などの写真も多く掲載して見てもらう機会を作ることができた。</p> <p>▲県内や市内の作品展を網羅しておらず、急遽な作品募集に対応できないときがあった。</p>
学校努力目標（2）—⑧			
③図書室の整備に努め、児童生徒が学びやすく、教師が授業を行いやすい環境を作る。	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書点検などを行い、蔵書の整備に努める。 職員から購入希望図書を募り、購入する。 	3	<p>○図書室の移動があったが、先生方の協力でスムーズに運営することができた。時期によっては湿気が多くなることもあり、衛生面など気掛けていきたい。</p> <p>▲本の扱い方や整理の仕方、借り方について改善が必要な場面が見られる。</p> <p>○その都度希望図書を記入する方法はスムーズにできた。</p>
学校努力目標（2）—⑧			

令和5年度 佐世保特別支援学校 教職員アンケート集計結果（質問項目別評価結果）

（回答者数 166/186 回答率 89.2%） ※教職員数の分母は、R5.5.1 現在の数

評価基準 ◎（4）：よく当てはまる ○（3）：やや当てはまる △（2）：あまり当てはまらない
×（1）：全く当てはまらない /（ノーカウント）：回答するのが難しい

NO.	具体的評価内容	R4	R5	達成度
学校経営等				
1	学校は、学校教育目標や校訓、学校の実態などを踏まえて学校経営目標や本年度努力目標を設定している。	3.4	3.6	98.8%
2	学校は、学校経営目標や本年度努力目標、部の実態などを踏まえて部の教育目標や経営目標、努力目標を設定し、部を運営している。	3.4	3.6	99.4%
3	学校は、学校経営目標や本年度努力目標、部の教育目標や経営目標、努力目標、学級の実態などを踏まえて学級経営目標を設定し、学級を運営している。	3.4	3.6	98.1%
4	学校は、目的に応じた委員会を組織するとともに、効果的・効率的に業務が遂行できるように校務分掌を組織している。	3.3	3.3	93.1%
5	分掌部は、学校経営目標や本年度努力目標、学校の実態などを踏まえて今年度の努力目標を設定し、分掌部の運営を行っている。	3.3	3.5	98.1%
6	学校は、業務改善アクションプランに基づいて働き方改革を推進している。	2.8	3.0	77.5%
7	学校は、文書や金銭等の管理や処理を適切に行っている。	3.5	3.6	100.0%
教育活動				
8	学校は、関係法令や学習指導要領に従い、児童生徒の障害の状態や特性、心身の発達の段階、学校や地域の実態等を十分に考慮して教育課程を編成（Plan）するとともに、適切に実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）を行っている。	3.3	3.4	96.8%
9	学校は、前年度までの反省を生かして学校行事の時期や回数、内容などを設定している。	3.2	3.4	94.3%
10	学校は、知的障害教育部門と肢体不自由教育部門の連携を図りながら、知肢併設校として特色ある教育活動を行っている。	2.8	3.0	77.9%
11	学校は、小学部、中学部、高等部を通じて、一貫した指導に努めている。	2.9	2.9	78.9%
12	学校は、個別の教育支援計画を作成し、必要に応じて活用している。	3.3	3.4	95.5%
13	学校は、個別の指導計画を作成し、児童生徒の障害の状態や特性などに配慮しながら個に応じた指導を行っている。	3.4	3.6	98.1%
14	学校は、道徳教育全体計画を踏まえて、道徳の時間や教育活動全体を通じて、道徳に関する指導を適切に行っている。	3.0	3.1	87.0%
15	学校は、食育全体計画を踏まえて食育に関する指導を適切に行っている。	3.2	3.2	89.8%
16	学校は、児童生徒の実態を的確に把握し、自立活動の時間における指導や教育活動全体を通じて、自立活動の指導を適切に行っている。	3.3	3.5	96.3%
17	学校は、キャリア教育全体計画を踏まえて、必要に応じてキャリアパスポートを活用しながら指導を行っている。	2.9	3.1	87.2%
18	学校は、児童生徒一人一人の命と人権を尊重し、障害特性や発達段階に応じて「体罰」や「不適切な言動」によらない指導を行っている。	3.5	3.6	96.3%
19	学校は、ICT 機器を活用するなど、授業を分かりやすくするための工夫を行っている。	3.2	3.4	96.9%
20	学校は、児童生徒や保護者に進路に関する情報を提供するとともに、自己選択・自己決定を促しながら進路指導を行っている。	3.3	3.4	97.3%

21	学校は、進路実現に向けて職場体験学習や現場実習などの実習等を適切に行っている。	3.5	3.6	98.7%
22	学校は、校外学習などの体験的な学習を適切に実施している。	3.4	3.7	99.4%
23	学校は、共生社会の実現に向けて、学校間交流や支援籍による居住地校交流を適切に行っている。	3.2	3.5	92.2%
24	学校は、児童生徒の生活年齢等に応じて保健指導を適切に行っている。	3.3	3.4	95.7%
25	学校は、避難訓練などを通して安全や防災に関する指導を適切に行っている。	3.5	3.6	96.9%
26	学校は、危機管理マニュアルを整備するとともに、必要に応じて見直しを行っている。	3.4	3.4	97.5%
27	学校は、事故やヒヤリハットが発生した場合には情報を共有し、再発防止に努めている。	3.4	3.6	96.9%
教育環境				
28	学校は、教育活動に必要な施設・設備を整備している。	2.7	2.7	62.5%
29	学校は、施設・設備の安全点検を定期的を実施し、問題点があれば早急に対応している。	3.3	3.3	92.5%
30	学校は、校舎内外の美化に努めている。	3.2	3.3	93.8%
31	学校は、校内の掲示を工夫して行っている。	3.3	3.3	94.4%
32	学校は、災害への備えとして計画的に備蓄品を準備している。	3.2	3.2	90.6%
専門性の向上				
33	学校は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善を行っている。	3.2	3.3	96.8%
34	学校は、研究授業や授業研究などを通して授業力の向上に努めている。	3.4	3.6	98.1%
35	学校は、「自閉症指導スタンダード」の共通理解を図り、確実に実践している。	3.1	3.2	90.7%
36	学校は、教職員として必要な研修（現職教育）を計画的に実施している。	3.3	3.5	97.4%
37	学校は、教職員に対して、教育センターの研修講座や各種研修会への参加を促し、専門性の向上に努めている。	3.3	3.3	93.5%
開かれた学校				
38	学校は、授業参観や学級懇談を計画的に実施している。	3.5	3.6	99.4%
39	学校は、本校への就学や進学を希望している幼児児童生徒やその保護者、関係者、地域の方などに対して、学校公開を適切に実施している。	3.5	3.7	98.1%
40	学校は、教育相談や特別支援教育コーディネーター連絡協議会の運営などを通して、地域の特別支援教育に関するセンターとしての役割を果たしている。	3.5	3.7	100.0%
41	学校は、ホームページや学校だより、学級だよりなどを通して、学校の様子を保護者や地域に発信している。	3.4	3.4	93.0%
42	学校は、連絡帳や電話、メールメイトなどで、必要な情報を素早く保護者に伝えている。	3.6	3.7	98.1%
43	教職員は、保護者や地域の学校、学校関係者、関係機関などからの相談に対して、誠意をもって丁寧に対応している。	3.6	3.7	98.8%
44	教職員は、保護者や学校関係者に積極的に挨拶をし、丁寧な対応を心掛けている。	3.6	3.6	96.9%
総合評価				
45	佐世保特別支援学校は、働きやすくやりがいのある学校である。	3.0	3.1	83.2%

令和5年度 児童生徒アンケート集計結果〔質問項目別評価結果〕

(回答者数 198/274 回答率 72.3%) ※児童生徒数の分母は、R4.5.1 現在の数

評価基準 ◎(4):よく当てはまる ○(3):やや当てはまる △(2):あまり当てはまらない
 ×(1):ぜんぜん当てはまらない / (ノーカウント):答えるのが難しい

NO.	具体的評価内容	R4	R5	達成度
1	学級は雰囲気が良い。	3.6	3.5	95.9%
2	学校行事は楽しい。	3.6	3.6	93.9%
3	先生は、タブレットパソコンや大型テレビなどを使って、分かりやすく授業をしている。	3.5	3.6	94.9%
4	先生は、自分の良いところや頑張ったことを褒めてくれる。	3.5	3.6	96.3%
5	先生は、宿題や手伝いなどの課題を出してくれる。	3.4	3.5	94.4%
6	先生は、進路についての情報を教えてくれる。	3.4	3.4	91.1%
7	先生は、私たちの意見をよく聞いてくれる。	3.4	3.6	95.4%
8	先生は、私たちの相談によくのってくれる。	3.4	3.5	93.8%
9	学校は、きれいに掃除されている。	3.5	3.5	96.7%
10	授業で使う教室などには、必要な道具がそろっている。	3.5	3.5	93.9%
11	学校は、安全である。	3.5	3.6	94.5%
12	学校には、作品などが飾られている。	3.5	3.5	93.6%

令和5年度 保護者アンケート集計結果（質問項目別評価結果）

（回答者数 181/269 回答率 67.2%） ※保護者数の分母は、R5.5.1 現在の数

NO.	具体的評価内容	R4	R5	達成度
評価基準 ◎（4）：よく当てはまる ○（3）：やや当てはまる △（2）：あまり当てはまらない ×（1）：全く当てはまらない /（ノーカウント）：回答するのが難しい				
教育活動				
1	学校の経営方針は適切である。	3.5	3.5	94.7%
2	学校は、各部門や各部の特色を生かした教育活動を行っている。	3.6	3.6	94.4%
3	学校は、小学部、中学部、高等部を通じて、一貫した指導に努めている。	3.5	3.4	90.7%
4	学校は、児童生徒一人一人の命と人権を尊重し、「体罰」や「不適切な言動」によらない指導を行っている。	3.6	3.6	94.3%
5	学校は、児童生徒の特性などに配慮しながら個に応じた指導を行っている。	3.6	3.5	90.9%
6	学校は、学習内容や教材を工夫しながら指導を行っている。	3.6	3.6	93.7%
7	学校は、ICT 機器を活用するなど、授業を分かりやすくするための工夫を行っている。	3.4	3.4	90.2%
8	学校行事の時期や回数、内容などは適切である。	3.4	3.5	95.4%
9	学校は、児童生徒の生活年齢等に応じて保健指導を適切に行っている。	3.4	3.4	92.4%
10	学校は、避難訓練などを通して安全・防災に関する指導を適切に行っている。	3.6	3.6	98.2%
11	学校は、進路に関する情報を提供するとともに、自己選択・自己決定を促しながら進路指導を行っている。	3.5	3.6	96.8%
12	学校は、卒業後の生活が豊かになるように、体験学習などを適切に実施している。	3.5	3.6	95.9%
13	学校は、共生社会の実現に向けて、学校間交流や支援籍による居住地校交流を適切に実施している。	3.4	3.4	87.3%
14	学校は、子供の成長や変容を的確に捉えて評価している。	3.5	3.5	93.2%
15	学校は、子供の学習や生活の様子、健康状態などの情報を保護者に伝えている。	3.7	3.6	94.9%
教育環境				
16	学校は、教育活動に必要な施設・設備を整備している。	3.3	3.3	88.1%
17	学校は、校舎内外の美化に努めている。	3.5	3.6	97.1%
18	学校は、校内の掲示を工夫して行っている。	3.6	3.6	96.6%
19	学校は、災害への備えとして計画的に備蓄品を準備している。	3.6	3.5	97.0%
開かれた学校				
20	学校は、授業参観や学級懇談を計画的に実施している。	3.6	3.6	94.4%
21	学校は、ホームページや学校だより、学級だよりなどを通して、学校の様子を保護者や地域に発信している。	3.5	3.5	93.6%
22	学校は、連絡帳や電話、メールメイトなどで、必要な情報を素早く保護者に伝えている。	3.7	3.5	94.4%
23	教職員は、保護者や学校関係者に積極的に挨拶をし、丁寧な対応を心掛けている。	3.6	3.6	93.7%
総合評価				
24	佐世保特別支援学校は、子供にとって望ましい学校である。	3.7	3.7	95.6%

令和5年度学校評価の結果と改善策について

1 自己評価の結果について

【改善策を検討する視点】

- ・自己評価の数値が「2」以下の項目。

(1) 各部における自己評価の結果について

- ・自己評価の数値が「2」以下はなく、全て3～4の評価だった。

(2) 各分掌部における自己評価の結果について

- ・自己評価の数値が「2」以下の項目は地域支援部の努力目標2のみ、他は全て3～4の評価だった。

2 教職員、保護者、児童生徒アンケートの結果について

【改善策を検討する視点】

- ・平均値が中央値である2.5ポイントを下回った項目。
- ・昨年度と比較して、平均値が0.5ポイント以上下回った項目。
- ・「達成度」が75%を下回った項目。
- ・自由記述に意見が挙げられた項目で、改善策の検討が必要又は望ましいと判断された項目。

「達成度」とは、4段階評価において4又は3と評価した人の全体に対する割合のこと。達成度75%は、全体の75%の人（4人中3人）が「良い」という評価である4又は3と評価したことを意味する。

(1) 教職員アンケートの結果について

- ・回答者数は166/186で、回答率は89.2%だった。休業中の教職員も母数に含めているので実際の回収率はもう少し高くなるが、回収率100%には達しなかった。

※令和4年度は回答者数146/172、回収率84.9%

- ・平均値が2.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・平均値が昨年度より0.5ポイント以上下回った項目はなかった。
- ・達成度が75%を下回ったのは、NO.28の施設・設備の充実の1項目だった。

※令和4年度は4項目（NO.6の働き方改革、NO.10の部門間の連携、NO.11の一貫した教育、NO.28の施設・設備の充実）

- ・自由記述では、人員不足や業務過多による多忙感、教室（施設）不足に関する意見が挙げられた。それ以外の意見で、全校的に改善策の検討が必要又は望ましいと判断した意見はなかった。

★人員不足や業務過多による多忙感に関すること。

★教室（施設）不足に関すること。（NO.28と関連）

(2) 児童生徒アンケートの結果について

- ・回答者数は198/274で、回答率は72.3%だった。回答率の低さは、回答するのが難しい児童生徒もいることによるもの。
- ・平均値が2.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・平均値が昨年度より0.5ポイント下回った項目はなかった。

- ・達成度が75%を下回った項目はなかった。
- ・自由記述の内容により、改善策の検討が必要又は望ましいと判断したものはなかった。

(3) 保護者アンケートの結果について

- ・回答者数は181/269で、回答率は67.2%だった。昨年度と同様、web上での回答と希望者には用紙を配付して回答してもらった。当初は文書で依頼し、締め切り数日前にメールメイトにて再度依頼した結果、昨年度より、回答率が上がった。

※令和4年度は回答者数147/274、回答率53.6%

- ・平均値が2.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・平均値が昨年度より0.5ポイント下回った項目はなかった。
- ・達成度が75%を下回った項目はなかった。
- ・自由記述の内容により、改善策の検討が必要又は望ましいと判断したものはなかった。

3 学校関係者評価の結果について

- ・先生方の地道な取組が、高い評価につながっていると思う。以前は「生活主義」で生活に必要な事柄を中心に教えていたが、今は教科指導でしっかり学習指導が行われている。当時の子供たちにも「知的刺激」を感じさせてあげたかったと思う。教え子の父親から「選挙に行き、投票ができた。」と嬉しそうに報告を受けたとき、社会に参加するとはこういうことだと思った。
- ・個々の児童生徒について、先生方が協議し、評価をしながら、先生方の力もついていく。その結果、保護者にもきちんと説明ができ、それが信頼につながる。
- ・業務削減で、会議も見直しが必要かと思うが、会議も「学び合う場」と捉え、力を付けていってほしい。
- ・先生方と保護者、子供がしっかりコミュニケーションを取っていくことが信頼向上につながると思う。
- ・細かい目標を立て、実践し、評価されている。先生方も子供たちも頑張っていると思う。
- ・施設・設備は以前から古いと言われてきているが、様々な工夫がされ、良くなっていると思う。
- ・同窓会や成人を祝う会など、卒業したら終わりではなく、卒業後も楽しみがある。今年の成人を祝う会には、コロナ禍で中止され参加できなかった年代も呼んでもらい、感謝している。
- ・小・中学校にもかかわっているが、共通しているのは教師の多忙感だと感じている。
- ・子供たち一人一人をよく見てもらっていると感じた。
- ・卒業式の時、入場の時には先生が車椅子を押していたが、退場の際は生徒が自分で車椅子を操作して退場した。その姿を見て、こうして社会に送り出すんだと感じた。
- ・社会では、相談できる場所が少ない。卒業後も、事業所と学校が連携して、支援を継続できればと思う。

4 改善策について

各部や各分掌部の自己評価、教職員、保護者、児童生徒アンケートの結果から、以下の点について改善策を講じることとする。

(1) 地域支援部の特別支援教育コーディネーター連絡協議会の組織・内容の充実について

- ・佐世保市：組織の横のネットワークの構築と運用

- ・佐々町　：コーディネーターの役割や実務等に関する研修の実施及び実務者のまとめ役の役割明確化の検討

(2) 働き方改革について

- ・安全衛生委員会を中心に、職員アンケート等を実施し改善の進捗状況を確認しながら、進めていく。
- ・組織として業務改善を進めつつ、各個人の働き方を見直しワークライフバランスの推進を働き掛けていく。
- ・業務を減らすという視点だけでなく、時間の組み方の工夫を一層進める。
　　<例>年度末・年度初めに情報教育部が業務に専念できる時間を確保することにより、情報教育部の部員の負担軽減ができ、他の職員も早く業務の整理（開始）ができるようになる。
- ・学校の開錠時刻と施錠時刻の見直しを継続し、教職員が学校に滞在している時間を短縮することで、超過勤務の削減を図る。（県が定める目標値：令和7年度　月45時間以上の教職員0%）

(3) 施設・設備の充実について

- ・増築や改築、移転などは県の予算が関係するので、早急に対応することは難しい。県教育委員会には、学校の実情を説明しながら継続して要望をしていく。
- ・改築を含めて現存の施設を有効活用できないか検討しながら、最低限必要な教室を確保するよう努める。

5 総括

- ・教職員アンケートは基本的に web 回答とした。回答後、部主事に報告したり、回答期間中、部主事が働き掛けを行ったりしたことで、回答率は昨年度よりも良い結果となった。
- ・児童生徒アンケートは児童生徒の実態に応じアンケート用紙又は web による回答ができるようにした。web 回答と用紙によるアンケートを並行して実施するのは集計作業が煩雑になることが危惧されるとの昨年度からの申し渡しがあったが、用紙による回答を web に入力することにより、集計作業が煩雑になることはなかった。
- ・保護者アンケートは基本的に web 回答とし、希望者には用紙を配付して回答してもらった。当初は文書で依頼し、締め切り数日前にメールメイトにて再度依頼した結果、昨年度より、回答率が15%程度上がった。来年度も、メールメイトなどで回答の呼び掛けを継続し、さらなる回答率の改善に努めたい。
- ・今回の評価は、昨年度と比較し、全般的に上昇傾向であったことは、職員の地道な実践の積み重ねが成果として表れたものと考える。今後も、さらに良い教育活動となるよう、今の取組を継続、発展、改善するよう努める。